

旧第11通学区「高校改革 実施方針」住民説明会（塩尻会場） 意見交換 発言要旨

令和2年（2020年）2月12日（水）

塩尻市保健福祉センター市民交流室 49名

発言者	発言内容（要旨）
A	次第の資料の14ページ「旧第12通学区の専門高校の将来像の検討と併せて」というのはどのようなことか。旧12通学区から旧11通学区に通学している生徒がいるので、旧12通学区の再編を見越して旧11通学区の再編計画を検討するということか。
県教委	旧12通学区もこれから議論がなされる。11と12は違う学区であるが近い関係であるため併せて考えることとしている。
B	現在でも、高校生はボリューム的にぎりぎりのところで勉強しているが、新規のもの（探究的な学び）を取り入れる場合、何かを削るのか、勉強時間を増やしてもらうのか。
県教委	これまでの講義型から生徒主体の探究型へと学び方を変えることであり、生徒の負担はそれほどないと考える。
B	講義型から変えることで知識量が減る。生徒の将来に悪い影響がないか危惧している。
県教委	知識量はある程度は必要であると考え。現在の高校教育を否定するものではないが、 <u>生徒の学ぶ姿勢、主体性が前面に出るような学びに変えていきたい。</u>
B	信州学は部活動の時間等を使って行い、何かやるにしても、現在行っているものを犠牲にしない形で行ってほしい。（要望）
B	（統合やある学校が募集停止となった場合、）特定の学校の生徒の学力レベルが多様となり、対応が難しくなってしまうのではないか。
県教委	再編に関して、都市部存立普通校と中山間地存立校という2つの基準を設けている。中山間地存立校については、ぎりぎりのところまで学びを保証していく。（特定の高校名が出たが）その高校でないといけない学びが行われているので大切にしていきたい。
C	高校改革について、すぐやるべきことは <u>授業改善</u> であり、じっくり取り組むべきことが再編計画である。（学校を残せという）地域エゴでなく全県的視野に立って、やるべきことはしっかりとやっていただきたい。 <u>子どもたちが目を輝かすのは、教室から出て地域を教材として学ぶプロセスにある</u> が教員の負担は測り知れない。探究型の学びへの転換はじっくり。
D	12月16日に行われた第1回懇話会ではどのような意見が出されたのか。
県教委	初回でもあり、立ち上げのための顔合わせが主であった。その中で、塩尻、松本、安曇野の3会場で住民説明会を行うこと、分科会（研究部会）を設置することについて確認をした。また、 <u>私立高校との関係の中で、県立高校の魅力化も考えていくべき</u> 、等の意見があった。
D	私立高校も巻き込んでしっかり議論を進めてほしい。（要望）
E	私立高校の授業料無償化もあり、公立高校は人口減少以上に厳しい。統合や閉校もやむを得ないとも考えるが、デリケートな問題なので <u>意見をしっかりと聞いてほしい。</u> （要望）
E	（統廃合は）残念だという気持ちと、しょうがないかという気持ちが入り乱れているが、 <u>できるだけ多くの方が納得できるように考えてほしい。</u> （要望）
B	高校では、他校との関係性は部活くらいか。「探究のネットワーク」とはどの程度のことを想定しているか。学力で分けられて視野が狭くなるので、交流を進めていくべきと考える。
県教委	まずは、各校で探究的な学びを進めていく。学校の枠を超えたネットワークを構築していくことが、今後必要であると考え。
B	部活動について、部員が確保できずに活動できない事例もあるが、部活動は高校生の成長にと

って重要な役割を果たす。今後どのような形で県としてサポートしていけるのかということも考えてほしい。(要望)

旧第11通学区「高校改革 実施方針」住民説明会（松本会場） 意見交換 発言要旨

令和2年（2020年）7月28日（金）

松本合同庁舎 講堂 107名

発言者	発言内容（要旨）	発言順
A	移住・定住のことを実施方針の中に挙げていない。普通高校は魅力がなく、生徒が私学に取られてしまう。 <u>人数が減っても高校が残るような方策</u> を一緒に考えてほしい。	
A	県として <u>個性尊重、伸長</u> はどう考えているか。	
県教委	探究的な学びをする中で「気づく」ことが大切。個性は人によって違う。同調圧力のような話があり憂慮しているが、 <u>中学高校で自己表現できるようになり伸びてくるのでは</u> 。	
B	再編が始まっている。どうなってきたのか、どうなっていくのか、 <u>総括と今後の見通し</u> を伺う。	
県教委	望月高校が今年度3月で募集停止となり第1期再編整備計画が終了。現在、総括の公表に向け纏めている。	
B	各地域において <u>高校が地域と結びつく活動</u> を行うことは大切。情報共有、話し合い、議論をしないと、 <u>今後を考えていくことができないのでは</u> 。総括を公表し、議論の継続を。	
C	<u>中高一貫校</u> に賛同している人が多い。11通学区の <u>中高一貫校</u> についてはどう考えているか。	
県教委	諏訪清陵に中高一貫で入学した生徒が今年3月に卒業した。2校（屋代・諏訪清陵）のモデル校について現在、総括している段階。今後の方向性についても示す予定。（今年度中に公表予定）	
D	再編計画と学びの保障の関わりについて。 <u>配慮が必要な子ども（外国籍・学習支援）に対する学びの保障</u> について考えを伺う。	
県教委	問題意識として持っている。配慮が必要な子どもたちを高校でどう受け入れ、進路保証していくかは考えていく課題として認識し、検討していきたい。	
D	学びの場の保障の観点とは何か。具体的に教えてほしい。	
E	11通学区の特徴である多くの私立高校とどのように話し合いをしているか。また、スライド⑫「 <u>適正数を考慮しながら</u> 」とは何か。また、「 <u>規模の大きさ</u> 」の意味合いは何か。	
県教委	公私連絡協議会で高校の在り方が検討されている。公私協調を深めながら、 <u>中学生の進路保証</u> をしていく。	
B	<u>少人数学級</u> という観点も入れてほしい。少人数学級についての今後の考え方を。	
県教委	高校は「学習集団」と「生活集団」が違う。生活集団としての少人数学級については、クリアしなければいけない課題も多いが、教育再生実行会議では少人数学級の検討の動きもあるので、 <u>動向を見ながら対応していくことになるのではないか</u> 。	
F	⑫のスライド、個人的には、これから <u>総合技術高校</u> が求められると思う。統合は賛成。施設設備を整える必要性がある。池工、南農、穂商、松工と非常に広域で考えなければいけなくなるが、 <u>どう考えているのか</u> 。	
県教委	society5.0、第6次産業化などでも言われるように、これからの日本の産業を考える意味で、 <u>今まで分散化していたものを一つにまとめることは必要という観点</u> 。	
G	<u>行政と教育現場が連携して少子化を止めるという視点</u> はないか。	
県教委	知事部局と連携していく大きな課題である。	
H	麻績村からは <u>通学時間</u> がかかりすぎる。多様な学びの場が極端な通学時間にならないように考えてほしい。子ども同士の世界は大事。学校で関係を持てる再編を。	

県教委	意見として承る
I	都市部校、中山間地校、それぞれの <u>存続基準</u> について、定義（再編基準）から外れればすぐに再編に乗り出すのか。人口減少の最中、先手を打つのか、結果で再編を進めていく、というスタンスか。
県教委	都市部においては実施方針に基づき、基準に抵触するようなことが今後起こるようなら再編を行う。各校で「 <u>3つの方針</u> 」について公表している。 <u>学校の魅力化</u> に努めていく。
J	学校を減らすのはもったいない（施設的に）。既存の高校（の施設を利用して）で <u>中高一貫校</u> を。
県教委	ご意見として承る。
H	<u>高校入試</u> はいかにあるべきか。
県教委	現在の入試制度において問題についての検討・対応は行っている。制度については現在検討中。公表したところでまたご意見を伺う。
I	<u>中山間地の人たちがどのような高校を望んでいるのか是非確認</u> をしてほしい。また、 <u>中山間地に都市部から通学する生徒が何を望んでいるのかの確認</u> を。
J	少人数での学習効果もあらわれてきている。特色ある学科に少人数コースを盛り込むなども提言していきたい。
K	<u>探究的な学び</u> について、具体的な説明を。
県教委	課題の発見が大切。問題意識・疑問を持つ、自分で考える、グループで意見交換、結論が出せなくてもまとめる。その後発表の仕方を考える。この一連の流れが探究の学びではないか。
K	<u>高校になると地域との関係が難しい</u> 。地域に出ていくとなると、課外授業のようなことになってくる。課題は大きいと思うが。
県教委	新しい学習指導要領の特徴の一つ、まさに「 <u>開かれた教育課程</u> 」ということ。様々な教育活動を通じて学校が地域と結びつき教育活動を行っていく。高校生は徐々に地域の方と触れ合う機会が増えてきている。地域の中の高校、地域の高校としての色彩を強めていくことは考えている。

旧第11通学区「高校改革 実施方針」住民説明会（安曇野会場①）意見交換 発言要旨

令和2年（2020年）8月28日（金）

豊科公民館大ホール 124名

発言者	発言内容（要旨）	発言順
A	ICTを使えば、統合しなくてもその場で多面的な学びが可能。住民は再編統合を望んでいない。少人数学級を考えてほしい。	
B	農業は日本の原点。機械化を進め、 <u>農業学校5年制</u> を。	
C	<u>スポーツに特化した科</u> をつくってほしい。私学はスポーツが盛ん。高齢化や福祉、街づくりの事も考え、公立でもスポーツや健康のことを学べる学校を。	
D	<u>少子化で統合には理解</u> 。ただ、適正規模という視点ではなく、このようなメリット・デメリットを考慮して <u>統合案</u> を出した、という話が聞きたい。	
県教委	農業科をなくす話ではない。いくつかの <u>専門学科を1つの学校に</u> ということ。農業にも工業的、商業的知識も必要で、総合技術高校という形にしてパワーアップし、価値を高めたい。 <u>少人数</u> となると、人員、設備などを全県の枠組みの中で考えなくてはいけない。国の動向を注視。	
E	専門校は <u>専攻科</u> をつくるなど、 <u>起業</u> できるような <u>専門家</u> を育てる高校を作って欲しい。	
F	“ <u>一定の規模でないと学びが維持できなくなる</u> ”というが、具体的にどう維持できなくなるのか。財政の面から再編をし、子供たちの学びにしわ寄せをさせているのではないのか。また、都市部や中山間地という区別も不要、11通学区だけで考えるのではなく、 <u>通学圏内の延伸化</u> な	

	<u>ども考慮した再編が必要</u> ではないか。
県教委	現在、ある程度の規模における学校での活動の中で生徒は互いに切磋琢磨し学んでいる。そういったものの維持が困難になる。どの地域、どの校種でも同じで、それを危惧しているということ。
G	総合技術高校のイメージはわかった。総合技術高校になっても農業の存続を是非お願いしたいが、伝統もあるのでぜひ（南農の）存続を。 <u>人間力が低下している。自己コントロール</u> できなくなっている。その結果いじめや自殺が増えているのでは。人間力を高めていく教育を。
県教委	自死の問題は、自分に自信を持つことが大切。達成感の積み重ねが必要。探究的な学びは達成感を積み重ねることができるもの、自信をつけていくことに与するものと考えている。
県教委	地元の高校に対する思いは充分に感じている。断腸の思いである。しかし、これからの子ども達のためにどのような学びの場が必要なのかを考え、実施方針でお示した次第。
H	農業にかじりついては限界が来る。統合は結構である。 <u>50年前の農・工・商の垣根を超えた、新しいやり方で（総合技術高校を）進めてほしい</u> 。ただ、立地場所については安曇野市で是非お願いしたい。
I	<u>貧困のことが触れられていない</u> 。 <u>交通費</u> がかかって（学校に）行けないといった生徒の補助などを県教委で県や国に求めているのか。子どもの人口が減っていているのは魅力のない県になっているのでは。県教委としてはどう考えているのか。人口が増えたらどうするのか。
県教委	長野県は最も多い時で89の高校が存在、現在は79校。人口減少については、全県的に取り組まなければいけない状況。移住には子どもの教育がポイントと言われている。そういったことから、学校もしっかりしたものをつくっていきたい。
J	私学への助成が気になる。憲法 89 条に関係する。財政が逼迫しているのであれば、私学への助成は後回しすべきではないか。助成はいかがなものかと思う。
県教委	憲法 89 条については様々な意見があるが、我々が特別コメントする立場にはない。
K	中学校は少子化で大会参加ギリギリのクラブが出てきている。高校はクラブなどで自分が頑張れる、 <u>ある程度の学校規模が必要</u> と思う。学級数が少なくなってきた高校同士を統合することがこれからは必要。長野県は都会に比べまだ公立高の進学が重要とされる。普通科の内容も魅力として考えてほしい。
県教委	I 氏の貧困という発言について。県としても可能な限りの制度があり、それらを活用し支援している。これからの高校は地域の力を借りないと持続可能な高校にはならない。現在は以前に比べそのようなこと（地域連携）がかなり進んでいる印象。高校改革ではその流れをさらに強めていきたい。1次（案）で挙がっている地域の検討委員会にも地域の方、PTAの方にも参加いただく予定。
L	私学との入学者数比率、84:16は守られているのか。この通学区は大型の私学がある。公立校を考えていても私学に取られてしまう。私学の中には他私学と協調しないところもあると聞く。 <u>公私のバランス</u> を守っていてもらいたい。
県教委	公私の募集定員については、毎年、県公立高校連絡協議会で募集定員を検討している。概ね県全体で8：2となっているが、地区により差がある。特に11区は公私のバランスが他地区と異なっている状況であると個人的に思っている。
M	探究的な学びについて、中学校までの段階で探究的な学びの素地が作られていなければいけないと思うが、そこまでいっていない子どもが目につく。改革の時に足りないのは“何を捨てるのか”。先生は大変な目にあっている。
県教委	今回の学習指導要領の改訂ではじめて幼から高へ1つに繋がる方針が示された。教育の内容が変わってきた。これからは進学の有無によらず大学（企業を含めた）と連携を深めていくので、その意味でも、地域を含めての教育が進むものと考えている。現在、小学校からの探究の時間が設けられている。今後、徐々に目的に応じた教育が変わっていくものと認識。

旧第11通学区「高校改革 実施方針」住民説明会（安曇野会場②）意見交換 発言要旨

令和2年（2020年）8月28日（金）

豊科公民館大ホール 146名

発言者	発言内容（要旨） 発言順
A	人口減というが、 <u>移住・定住</u> のことを実施方針の中に挙げていない。 <u>高校が残るような方策を一緒に考えてほしい。</u>
県教委	移住・定住の1つのポイントが子どもの教育の場。高校改革でこれからの相応しい学びの場というものをまとめている。魅力ある学校づくりの1つ総合技術高校は県下3校。生徒の感想も好印象。ある程度の規模があることで大会参加など活動可能。興味のある他学科のクラブにも参加可能と考える。学校は授業も重要だが、クラブや生徒会などの活動も生徒にとって魅力。
A	資格を取った生徒に公立高校として奨励金を出すようなことはないのか。それも魅力の一つではないか。同窓会ではやっているが、学校として行うことはできるのか。2, 3年で情勢が変わる可能性があることも踏まえてもらいたい。
県教委	県立高校として報奨金を出すことはない。
A	穂高から <u>松本に進学・就職</u> する。穂高商業に通わない。農業でやっていこうとしている町の農業高校がなくなることは（農業をめざす）子どもが目標を失うこと。（商業高校がなくなることは）商業をやろうとしている子供の学びがなくなること。
県教委	<u>地域の活性化</u> については、高校再編だけでの取組ではないので、県、市をあげてやっていくものとする。行政が考えていく大きな宿題として収める。
B	スケジュールについて、コロナ等もあり2・3年で状況が変わってくる可能性がある。2021年3月の確定はそのまま進むのか。基準変更が必要になってくるのでは。
県教委	スケジュールについては、コロナの影響もあり、2021年3月を2022年3月に1年先送りした。第5通や第2通については地域の話し合いでまとまった要望があがってきているので、今年度中に2次分という形で計画を示したい。
B	<u>急激な変化</u> があるということも考慮に入れながら考えてほしい。
県教委	来年からという話ではない。長い期間をかけて議論していく。一定の方向であるということをご理解いただきたい。
C	<u>少子化で統廃合は当然</u> であるが、それぞれの高校が地域と密接に繋がっていて簡単にはいかない。同窓会としては是非学校は残してほしいが、 <u>農業は後継者がいないのが現実</u> 。 <u>実業高校などを県として今後どのように力を入れていこうと思っているのか</u> 。農業の現場をどのように維持していこうと思っているのか。再編対象についての説明があったが、 <u>不安である</u> 。
県教委	生徒数が少なくなれば学級数が減っていく。専門高校のあり方について、単独の学びを維持することが良いのか、それとも総合技術高校のようにいくつかの専門高校が集まって新たな高校をつくっていった方が良いのかを考えた時、総合技術高校の方が魅力が多いと考えている。
C	総合技術高校の充実・拡大とは具体的にどういうことか。
県教委	総合技術高校にすることで学校がなくなってしまうということを考えるが、専門高校の学びはしっかりと残して、新しい学校をつくるという視点である。佐久平総合、飯田 OIDE など、専門学科の新しい高校像として活動している。
C	新しい学校をつくるということか。既存のものは関係なく？
県教委	総合技術高校は今までにない学校。 <u>現在の専門校の良さを生かしながら新しい学校をつくる</u> ということで進めてきた。11通学区にはそれが必要ではないかということを実施方針で提案したもの。
D	<u>探究的な学び</u> 、 <u>能動的な学び</u> を進めるという素晴らしい取り組みだと思う。 <u>教育のパーソナラ</u>

	イズ化が必要。ティーチング型のはオンラインで受講できる。教師は生徒とともに画面を見てコーチングに徹することが大事だと思う。そのことで子ども一人一人に合った学習の魅力を高める学びの場が提供されるのでは。
県教委	オンライン授業の推進発展に伴うコーチングの大切さ、コーチングはオンライン授業でなくとも重要なものと思う。これからの教員はファシリテートやコーディネートといった力が求められると思う。教師は今までの一方通行のものではなく、グループの中に入っていき助言をするといったことが重要になり、教師もその能力が必要になってくると思っている。
E	多様な学びの場の拡充について、具体的な内容を知りたい。実際の生徒の感想などが知れるとイメージしやすい。特別支援教育の充実について、発達障害の子を持つ保護者は今後の進路についてとても不安に思っている。説明の場があればうれしい。
県教委	未来の学校構築事業で実施を始めている。モデル校が6校。校内で終わらせるのではなく全県に広めることが重要な役割。発表があれば一般の方を含め参加可能。特別支援に関しては、徐々に県として力を入れ始めているところ。こちらも様々な形で支援していきたい。
F	中学生の段階で普通高校、専門高校を決められない生徒もおり、入学後、考えていたものと違ったという生徒もいる。そういった点で総合技術高校に魅力を感じる。ぜひ推進してほしい。
G	農業は日本の基幹産業。県や県教委は農家に対する認識をどの程度持っているのか。農業高校に対し、教材、環境整備をどの程度の形の中で認識してやっているのか。
県教委	どの高校、学科かに限らず高校生が学ぶにふさわしい環境整備をしている。農業科の環境整備について、機械の老朽などの話は聞いているが、県下の高校で校舎老朽化、設備不備などの要望を聞きながら整備。特定の学科に対して特別扱いはできない。
G	東北信、中南信に少なくとも農業高校1校は残すべきと望む。
H	少子化が進んでいる。1学級当たりの担任数は決まっているので、教員数が増えれば、様々な要望を持った子どもたちの指導に手厚く答えることができる。ぜひそう言った再編を県主導で国を動かしてほしい。そうしなければ尻すぼみになることは目に見えている。
県教委	高校の場合は義務教育とは違い、学習集団、生活集団が分かれている。少人数学級について、職員数、新たな施設設備が必要になるなどの課題を考えると、教育委員会だけで解決できるものではない。国の教育再生実行会議でも少人数学級について検討していくということもある。国の動向も踏まえながら検討していく必要がある。
I	関西からの移住者。都会に比べると高校の選択肢は少ない。探究的な学びはこれからの子どもたちにとってとても良い学びであるが、指導者が魅力的でないと。民間からの講師なども検討を。安曇野という恵まれた環境の中で農業を学べるのはとても良いこと。より専門的な勉強ができる専攻科のある都市部存立専門校にし、全国からでも来たいと思えるような学校に。統廃合の基準に合致したからと言って、すぐに統合、募集停止というのは短絡的ではないか。支援が必要な子どもたちが安心して学べる場を作って。
J	探究的な学びで何を探究するかが大切。県立高校として、信州の将来を担う生徒が育ってほしいということが盛り込まれていない。チャンスととらえ、これからのハードウェアとソフトウェアの部分をつなげてほしい。農業は農業高校だけで学ぶのではない。豊科高校でもプロジェクトをすればよい。普通科にたくさん行くので普通科というのは単純すぎる。
県教委	信州学は地域に根ざした探究的な学びの総称で、求めるものは各校により違う。普通科も再編の話がある。特色のなかった普通科に特色づけをしようという動きが国から出てきている。普通科は魅力化が遅れていた。また、民間、地域の方を講師に招いて授業を行っているという学校もある。それらも参考にしながら、地域と学校の結びつきを深めていく必要がある。
K	総合技術高校は、南農、穂商だけでなく広域的に。池工も合わせ3校が納得した形で一つにまとまらなければうまくいかない。また、ロケーションも大切。文教地区である穂高に。